

2020 年度 学修状況調査

2021 年 10 月 20 日作成

1. はじめに

本調査は2020年度授業が終了した学生に対し、自身の人間的成長を含めた学修状況を確認すると共に学修支援の参考資料を得るため実施した。調査項目は社会人・医療人としての必須能力である「他者との関わり」、「多様な社会への関心」、「思考・判断」、「態度」、「リテラシー」、「授業・グループワークなどでの自己表現」、「学修習慣」についてアンケート調査を行った。

2. 調査方法

今回のアンケート調査は2020年度授業が終了している2021年2月26日より2021年3月12日までの期間に実施した。対象は本学医療学部の在学学生1～4年生（2020年度）の284人とした。Microsoft社製Office365のformsを用い、質問URLを対象学生へメール送信しアンケートに回答してもらった。

3. 結果と補足説明

回答は284名中154名（回収率54.2%）であった。2019年度、2018年度も同様のアンケートを実施し、2019年度は1～3年生までの226名中110名（回収率48.7%）、2018年度は1～4年生の373名中117名回答（回収率31.4%）であった。2019年度は2020年3月頃のアンケート実施、2018年度は2018年8月中旬頃のアンケート実施である。過去年度のデータも比較して2020年度の結果を項目ごとで説明する。

1) 他者との関わり

(1) 結果

質問として「他者への関わり；以下の項目で該当するものを選択してください。」として5つの選択肢より1つ回答した結果を表1に示した。また、2019年度、2018年度結果も下部に示した。

表1 他者との関わり（（ ）内は%）

2020年度

	全体		1年次		2年次		3年次		4年次	
①友人がいない。	6	(4)	4	(8)	1	(3)	0	(0)	1	(3)
②少数の友人がいる。	74	(48)	29	(58)	15	(43)	12	(35)	16	(53)
③学内に多数の友人がいる。	71	(46)	17	(34)	18	(51)	20	(59)	13	(43)
④学外のコミュニティー(クラブ・同好会など)	3	(2)	0	(0)	1	(3)	2	(6)	0	(0)
⑤多くのコミュニティーに属し活動している	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)
計	154	(100)	50	(100)	35	(100)	34	(100)	30	(100)

2019年度

	全体		1年次		2年次		3年次	
①友人がいない。	2	(2)	1	(2)	0	(0)	1	(2)
②少数の友人がいる。	54	(49)	20	(49)	9	(35)	24	(56)
③学内に多数の友人がいる。	44	(40)	17	(41)	12	(46)	15	(35)
④学外のコミュニティー(クラブ・同好会など)に参加している。	3	(3)	0	(0)	2	(8)	1	(2)
⑤多くのコミュニティーに属し活動している。	8	(7)	3	(7)	3	(12)	2	(5)
計	111	(100)	41	(100)	26	(100)	43	(100)

2018年度

	全体		1年次		2年次		3年次		4年次	
①友人がいない。	4	(3)	0	(0)	1	(4)	2	(6)	1	(3)
②少数の友人がいる。	51	(44)	8	(42)	8	(30)	12	(35)	23	(62)
③学内に多数の友人がいる。	47	(40)	10	(53)	12	(44)	15	(44)	10	(27)
④学外のコミュニティー(クラブ・同好会など)に参加している。	13	(11)	1	(5)	6	(22)	3	(9)	3	(8)
⑤多くのコミュニティーに属し活動している。	2	(2)	0	(0)	0	(0)	2	(6)	0	(0)
計	117	(100)	19	(100)	27	(100)	34	(100)	37	(100)

(2)補足説明

全体の傾向として「②少人数の友人がいる」と「③学内に多数の友人がいる」に2分されており、学年の進行とは関係性が認められなかった。過去年度と比較すると（図1）、2020年度は「①友人がいない」が1年次で少数みられ、学年の進行に伴い友人関係はひろがっているものの、学内の友人関係の成立に時間を要していることが考えられた。過去年度を比較すると、1年次の状況では、「②少人数の友人がいる」が「③学内に多数の友人がいる」よりも2019年度～2020年度で多くなっている。これは、コロナ感染対策のため、学内のイベントは中止もしくは制限され、講義も多くがweb講義となり、直接交流する場も少なかったことが影響しているかもしれない。また、1年生は入学後間もない4月頃に、宿泊研修を例年行い、学生または教職員と活発な交流を通して早期の親睦を図っていた。しかし、コロナ感染対策のため2020年度は中止となっていることも要因と思われた。

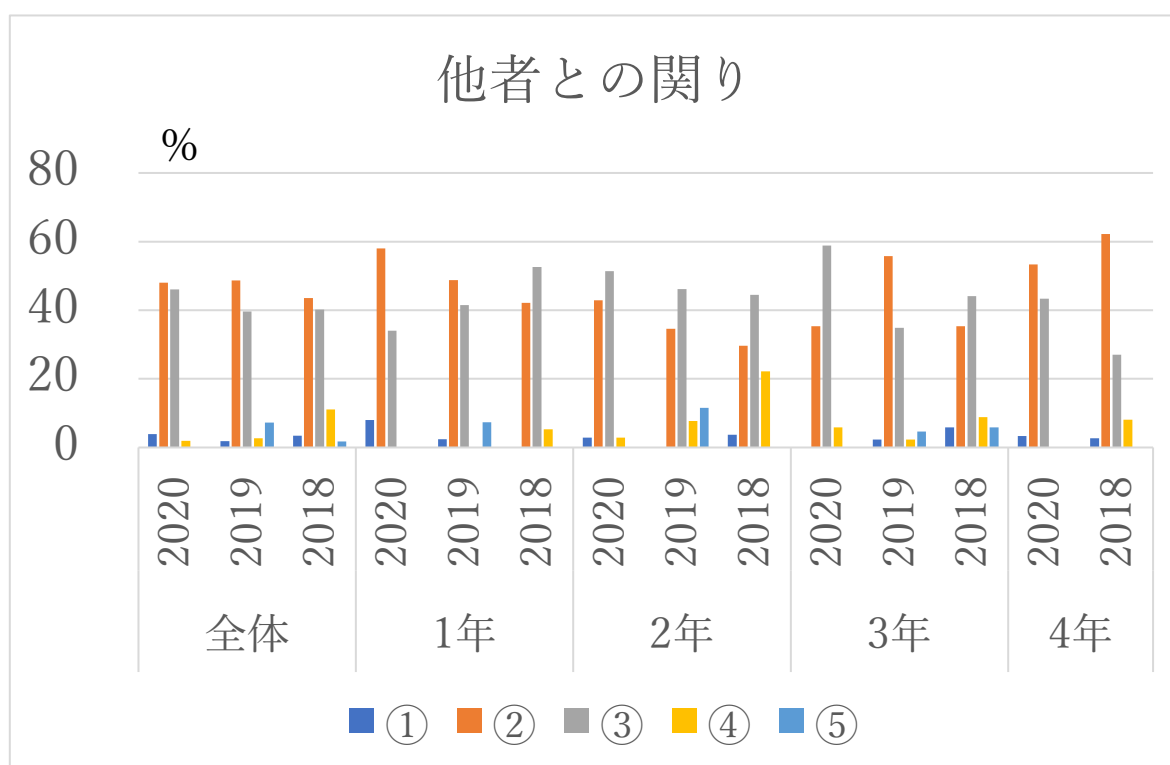


図1 他者との関わり 2020年度、2019年度、2018年度の全体および各学年の比較

2)多様な社会への関心

(1)結果

質問として「多様な社会への関心; 以下の項目で該当するものを選択してください。」として5つの選択肢より1つ回答した結果を表2に示した。また、2019年度、2018年度結果も下部に示した。

表2 多様な社会への関心 (() 内は%)

2020 年度

	全体		1年次		2年次		3年次		4年次	
①ニュースなどに全く関心がない。	5	(3)	3	(6)	0	(0)	2	(6)	0	(0)
②ときどきニュースを見る。	97	(63)	34	(68)	23	(68)	21	(60)	16	(55)
③興味のあるニュースについて自分から探して調べる。	42	(27)	12	(24)	10	(29)	9	(26)	9	(31)
④ ③に加え、関連した情報を本やインターネットで調べる。	7	(5)	1	(2)	1	(3)	0	(0)	4	(14)
⑤自ら進んで社会の問題を考え解決しようと行動する。	3	(2)	0	(0)	0	(0)	3	(9)	0	(0)
計	154	(100)	50	(100)	34	(100)	35	(100)	29	100

2019 年度

	全体		1年次		2年次		3年次	
①ニュースなどに全く関心がない。	2	(2)	0	(0)	1	(4)	1	(2)
②ときどきニュースを見る。	55	(50)	24	(59)	11	(42)	20	(47)
③興味のあるニュースについて自分から探して調べる。	38	(35)	13	(32)	11	(42)	14	(33)
④ ③に加え、関連した情報を本やインターネットで調べる。	15	(14)	4	(10)	3	(12)	8	(19)
⑤自ら進んで社会の問題を考え解決しようと行動する。	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)
計	110	(100)	41	(100)	26	(100)	43	(100)

2018 年度

	全体		1年次		2年次		3年次		4年次	
①ニュースなどに全く関心がない。	9	(8)	2	(11)	3	(11)	3	(9)	1	(3)
②ときどきニュースを見る。	67	(57)	13	(68)	17	(63)	19	(56)	18	(49)
③興味のあるニュースについて自分から探して調べる。	26	(22)	2	(11)	5	(19)	8	(24)	11	(30)
④ ③に加え、関連した情報を本やインターネットで調べる。	14	(12)	2	(11)	2	(7)	4	(12)	6	(16)
⑤自ら進んで社会の問題を考え解決しようと行動する。	1	(1)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	1	(3)
計	117	(100)	19	(100)	27	(100)	34	(100)	37	(100)

(2)補足説明

ニュースなど世の情勢を知ることに関心がない学生は少ないが、時々ニュースを見たり、興味ある事柄だけ自分で調べる程度である。全体では「②ときどきニュースを見る。」が圧倒的に多く、次いで「③興味のあるニュースについて自分から探して調べる。」であり、例年と同様の傾向である。しかし、2020年度では4年次になると「④関連した情報を本やインターネットで調べる。」が若干多く、実習や国家試験、さらには就職やコロナ感染対策などの非常に大きなイベントや事柄が多く、社会活動や生活に必要な情報も増えているためではないかと考えられる。

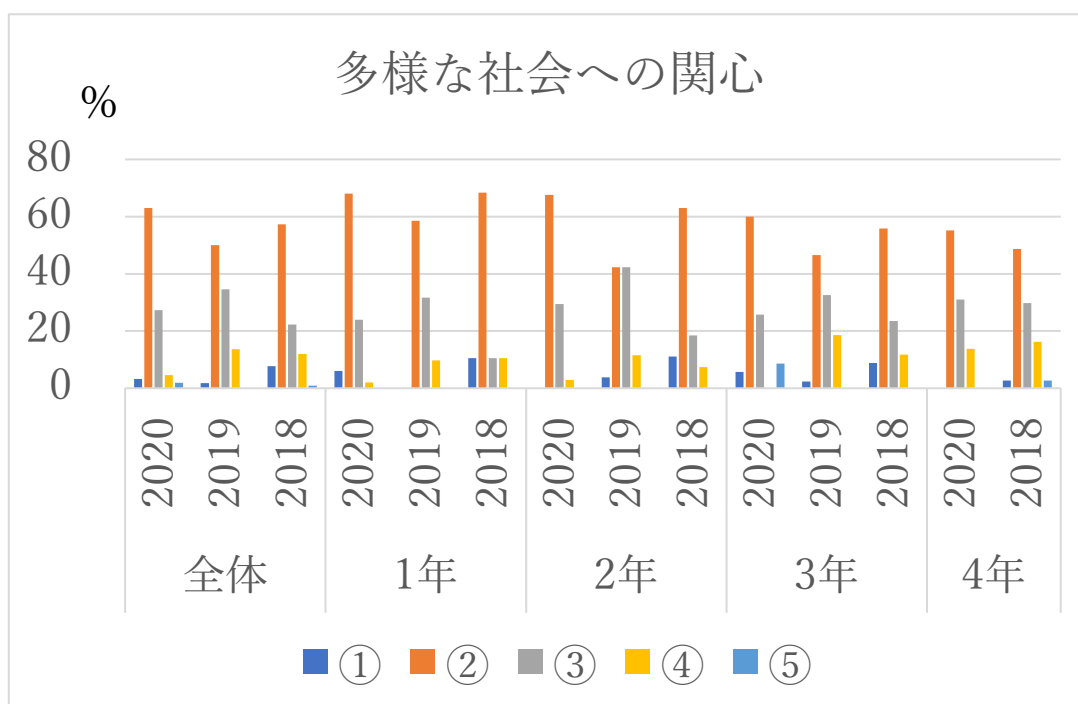


図2 多様な社会への関心 2020年度、2019年度、2018年度の全体および各学年の比較

3) 人文科学分野の単位取得状況

(1) 結果

質問として「今まで取得した(人文科学分野)の単位取得状況について選択してください。注) 取得とは試験に合格したことを言う。」として5つの選択肢より1つ回答した結果を表5に示した。また、2019年度、2018年度結果も下部に示した。

表3 人文科学分野の単位取得状況 (() 内は%)

2020年度

	全体		1年次		2年次		3年次		4年次	
①取得した単位がない。	7	(5)	5	(10)	0	(0)	1	(3)	1	(3)
②1単位取得している。	7	(5)	5	(10)	1	(3)	0	(0)	1	(3)
③2単位取得している。	22	(14)	3	(6)	8	(25)	4	(12)	5	(17)
④3単位取得している。	42	(27)	26	(54)	2	(6)	8	(24)	3	(10)
⑤4単位以上取得している。	76	(49)	9	(19)	21	(66)	20	(61)	19	(66)
計	154	(100)	48	(100)	32	(100)	33	(100)	29	100

2019年度

	全体		1年次		2年次		3年次	
①取得した単位がない。	6	(5)	2	(5)	2	(8)	2	(5)
②1単位取得している。	5	(5)	2	(5)	0	(0)	3	(7)
③2単位取得している。	17	(15)	7	(17)	2	(8)	8	(19)
④3単位取得している。	33	(30)	19	(46)	5	(19)	9	(21)
⑤4単位以上取得している。	49	(45)	11	(27)	17	(65)	21	(49)
計	110	(100)	41	(100)	26	(100)	43	(100)

2018年度

	全体		1年次		2年次		3年次		4年次	
①取得した単位がない。	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)
②1単位取得している。	4	(4)	1	(6)	0	(0)	2	(7)	1	(3)
③2単位取得している。	28	(26)	10	(56)	7	(32)	6	(21)	5	(14)
④3単位取得している。	29	(27)	7	(39)	6	(27)	7	(24)	9	(24)
⑤4単位以上取得している。	45	(42)	0	(0)	9	(41)	14	(48)	22	(59)
計	106	(100)	18	(100)	22	(100)	29	(100)	37	(100)

(2)補足説明

1年次では3単位取得が5割程度と最も多く、2～4年次では4単位以上取得が6割強となっている。過去年度と比較すると(図3)、2018年度は「①取得した単位がない。」という学生は全くいなかったが、2020年度および2019年度は少数存在している。また、2018年度は1、2年次の取得単位数が少ないが、2018年度は8月中旬にとったアンケートなので、まだ前期の成績が確定していない科目の影響が推測された。

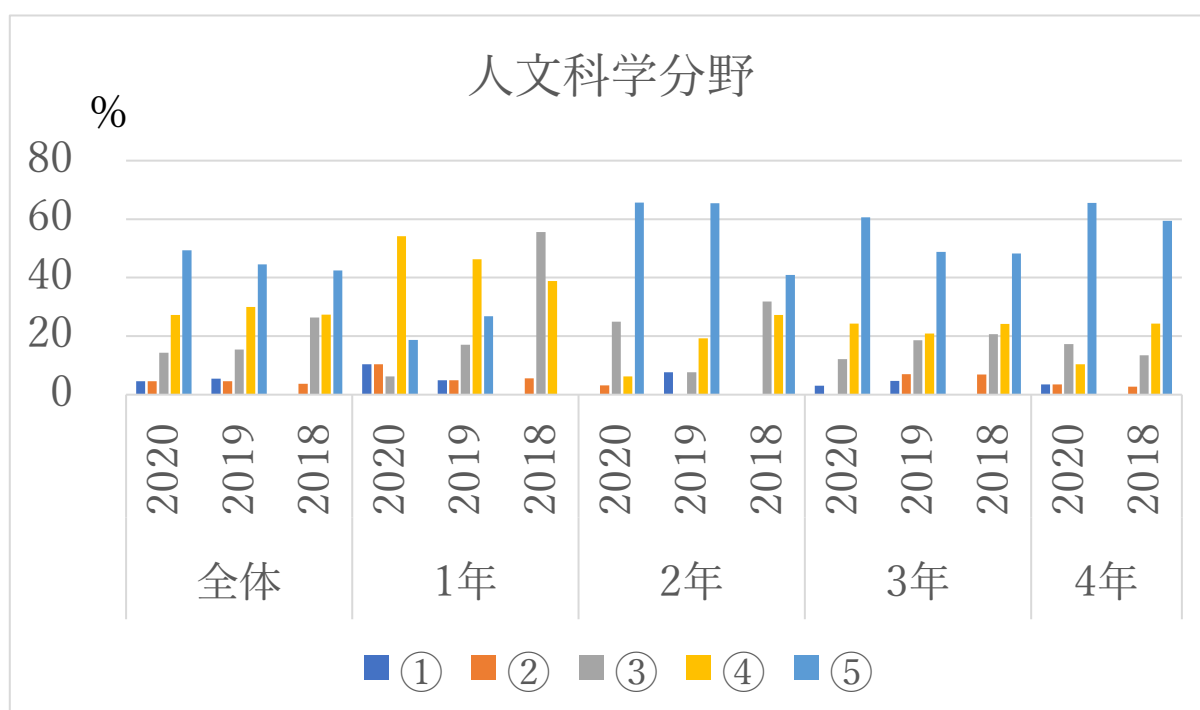


図3 人文科学分野の単位取得状況 2020年度、2019年度、2018年度の全体および各学年の比較

4) 自然科学分野の単位取得状況

(1)結果

質問として「今まで取得した(自然科学分野)の単位取得状況について選択してください。注) 取得とは試験に合格したことを言う。」として5つの選択肢より1つ回答した結果を表4に示した。また、2019年度、2018年度結果も下部に示した。

表4 自然科学分野の単位取得状況（（ ）内は％）

2020年度

	全体		1年次		2年次		3年次		4年次	
①取得した科目がない。	7	(5)	4	(9)	0	(0)	2	(6)	1	(4)
②1単位取得している。	7	(5)	4	(9)	2	(6)	0	(0)	1	(4)
③2単位取得している。	14	(9)	3	(6)	1	(3)	3	(9)	6	(22)
④3単位取得している。	17	(11)	14	(30)	3	(9)	0	(0)	0	(0)
⑤4単位以上取得している。	109	(71)	22	(47)	26	(81)	27	(84)	19	(70)
計	154	(100)	47	(100)	32	(100)	32	(100)	27	100

2019年度

	全体		1年次		2年次		3年次	
①取得した科目がない。	5	(5)	2	(5)	2	(8)	1	(2)
②1単位取得している。	8	(7)	4	(10)	0	(0)	4	(9)
③2単位取得している。	9	(8)	1	(2)	2	(8)	6	(14)
④3単位取得している。	7	(6)	6	(15)	1	(4)	0	(0)
⑤4単位以上取得している。	81	(74)	28	(68)	21	(81)	32	(74)
計	110	(100)	41	(100)	26	(100)	43	(100)

2018年度

	全体		1年次		2年次		3年次		4年次	
①取得した科目がない。	11	(9)	1	(5)	5	(19)	4	(12)	1	(3)
②1単位取得している。	3	(3)	2	(11)	0	(0)	1	(3)	0	(0)
③2単位取得している。	25	(21)	2	(11)	9	(33)	10	(29)	4	(11)
④3単位取得している。	3	(3)	2	(11)	0	(0)	0	(0)	1	(3)
⑤4単位以上取得している。	75	(64)	12	(63)	13	(48)	19	(56)	31	(84)
計	117	(100)	19	(100)	27	(100)	34	(100)	37	(100)

(2)補足説明

自然科学分野の科目は医療との関りが深いことにより、多くの科目を履修するよう指導しており、1年次から3単位もしくは4単位以上取得する学生が多い。過去年度と比較しても、その傾向は同様であるが、2020年度の2～3年次学生で8割程度が4単位以上取得している状況となっている。

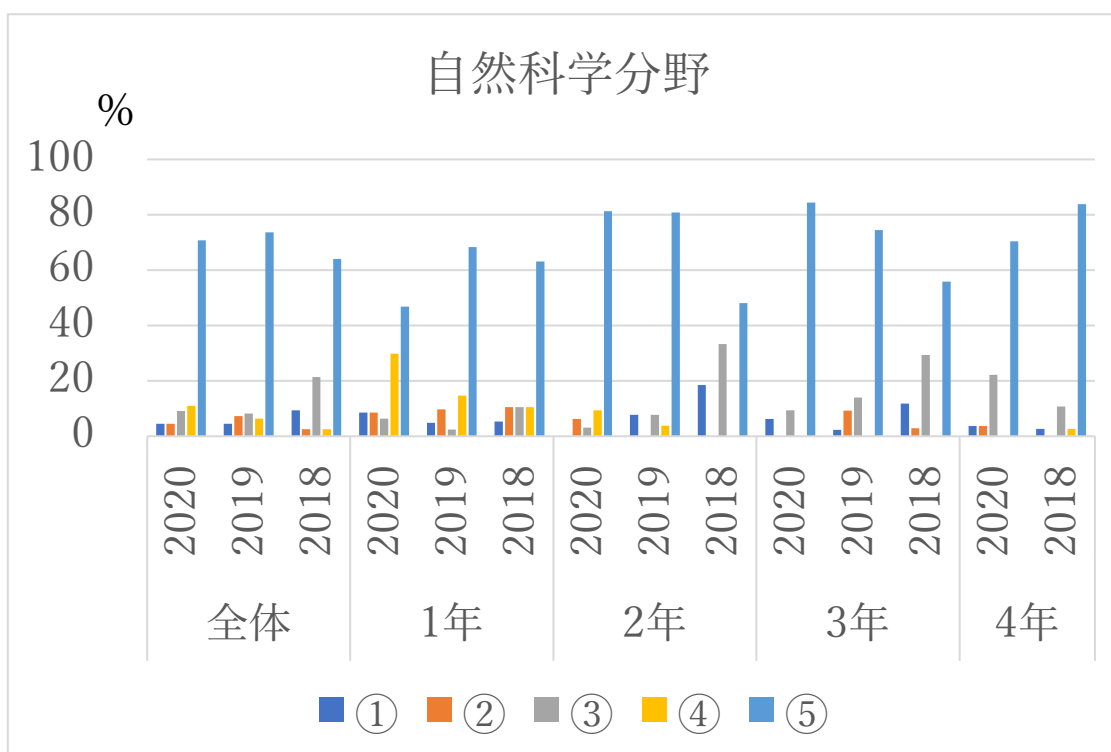


図4 自然科学分野の単位取得状況 2020年度、2019年度、2018年度の全体および各学年の比較

5) 社会科学分野の単位取得状況

(1) 結果

質問として「今まで取得した(社会科学分野)の単位取得状況について選択してください。注) 取得とは試験に合格したことを言う。」として5つの選択肢より1つ回答した結果を表5に示した。また、2019年度、2018年度結果も下部に示した。

表5 社会科学分野の単位取得状況 (() 内は%)

2020年度

	全体		1年次		2年次		3年次		4年次	
①取得した単位がない。	6	(4)	3	(6)	1	(3)	1	(3)	1	(4)
②1単位取得している。	5	(3)	4	(9)	1	(3)	0	(0)	0	(0)
③2単位取得している。	43	(28)	12	(26)	14	(42)	5	(15)	8	(30)
④3単位取得している。	6	(4)	2	(4)	0	(0)	2	(6)	2	(7)
⑤4単位以上取得している。	94	(61)	26	(55)	17	(52)	25	(76)	16	(59)
計	154	(100)	47	(100)	33	(100)	33	(100)	27	100

2019年度

	全体		1年次		2年次		3年次	
①取得した単位がない。	4	(4)	2	(5)	2	(8)	0	(0)
②1単位取得している。	6	(5)	3	(7)	0	(0)	3	(7)
③2単位取得している。	38	(35)	16	(39)	6	(23)	16	(37)
④3単位取得している。	4	(4)	3	(7)	1	(4)	0	(0)
⑤4単位以上取得している。	58	(53)	17	(41)	17	(65)	24	(56)
計	110	(100)	41	(100)	26	(100)	43	(100)

2018 年度

	全体		1年次		2年次		3年次		4年次	
①取得した単位がない。	15	(13)	6	(32)	5	(19)	4	(12)	0	(0)
②1単位取得している。	9	(8)	6	(32)	2	(7)	0	(0)	1	(3)
③2単位取得している。	27	(23)	7	(37)	7	(26)	7	(21)	6	(16)
④3単位取得している。	3	(3)	0	(0)	0	(0)	1	(3)	2	(5)
⑤4単位以上取得している。	63	(54)	0	(0)	13	(48)	22	(65)	28	(76)
計	117	(100)	19	(100)	27	(100)	34	(100)	37	(100)

(2)補足説明

社会科学分野の科目は、1、2年次で2単位もしくは4単位以上取得した学生が多く、半数以上が4単位以上取得する分野であることが分かる。過去年度と比較すると、2020年度は1年次の早期の段階からこの分野の科目を多く取得している傾向である。

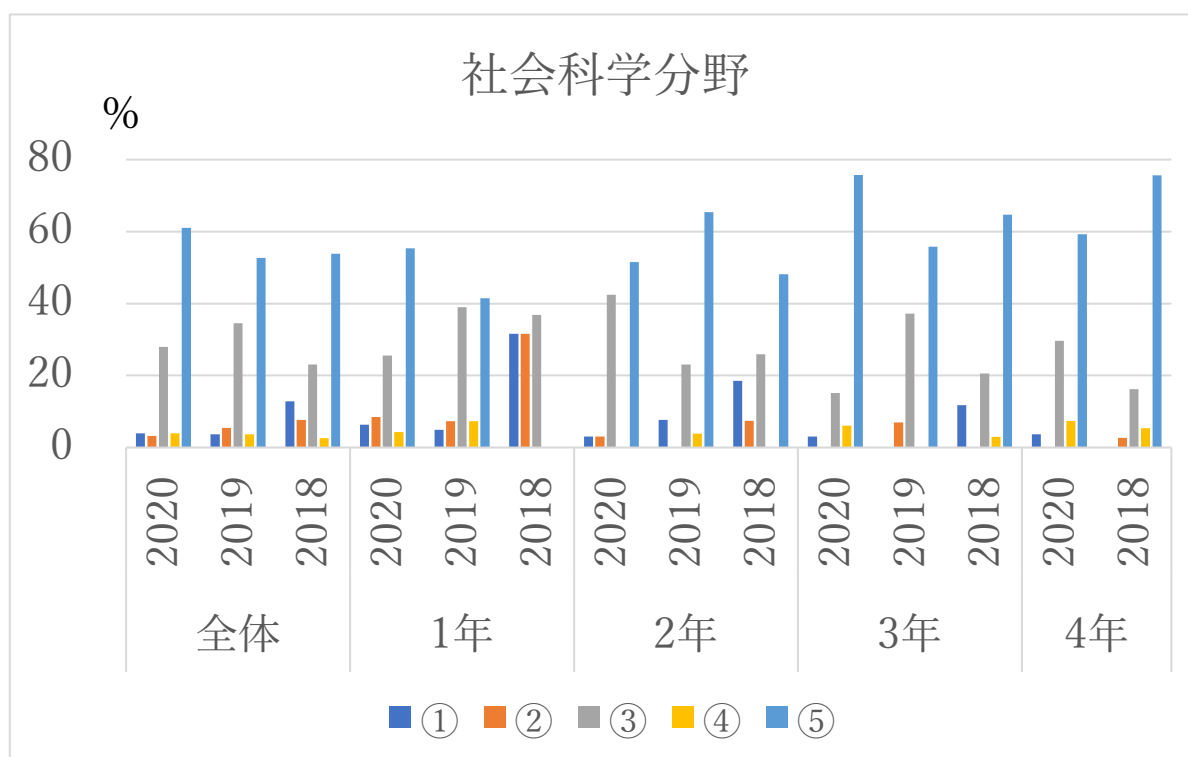


図5 社会科学分野の単位取得状況 2020年度、2019年度、2018年度の全体および各学年の比較

6) 外国語分野の単位取得状況

(1)結果

質問として「今まで取得した(外国語分野)の単位取得状況について選択してください。注)取得とは試験に合格したことを言う。」として5つの選択肢より1つ回答した結果を表6に示した。また、2019年度、2018年度結果も下部に示した。

表6 外国語分野の単位取得状況（（ ）内は%）

2020年度

	全体		1年次		2年次		3年次		4年次	
①取得した単位がない。	3	(2)	2	(4)	0	(0)	0	(0)	1	(4)
②1単位取得している。	4	(3)	2	(4)	2	(6)	0	(0)	0	(0)
③2単位取得している。	21	(14)	20	(42)	0	(0)	1	(3)	0	(0)
④3単位取得している。	5	(3)	1	(2)	0	(0)	3	(9)	1	(4)
⑤4単位以上取得している。	121	(79)	23	(48)	30	(94)	28	(88)	25	(93)
計	154	(100)	48	(100)	32	(100)	32	(100)	27	100

2019年度

	全体		1年次		2年次		3年次	
①取得した単位がない。	2	(2)	1	(2)	1	(4)	0	(0)
②1単位取得している。	4	(4)	1	(2)	1	(4)	2	(5)
③2単位取得している。	7	(6)	4	(10)	0	(0)	3	(7)
④3単位取得している。	3	(3)	1	(2)	0	(0)	2	(5)
⑤4単位以上取得している。	94	(85)	34	(83)	24	(92)	36	(84)
計	110	(100)	41	(100)	26	(100)	43	(100)

2018年度

	全体		1年次		2年次		3年次		4年次	
①取得した単位がない。	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)
②1単位取得している。	1	(1)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	1	(3)
③2単位取得している。	16	(15)	6	(32)	5	(23)	3	(9)	2	(5)
④3単位取得している。	6	(5)	0	(0)	1	(5)	5	(16)	0	(0)
⑤4単位以上取得している。	87	(79)	13	(68)	16	(73)	24	(75)	34	(92)
計	110	(100)	19	(100)	22	(100)	32	(100)	37	(100)

(2)補足説明

教養科目のうち、外国語の卒業要件は4単位以上取得することである。過去年度は1年次から4単位以上取得する学生が多かったが、2020年度は1年次から4単位以上取得する学生は5割程度と多くなく、2年次で概ね4単位以上取得する傾向となっている。

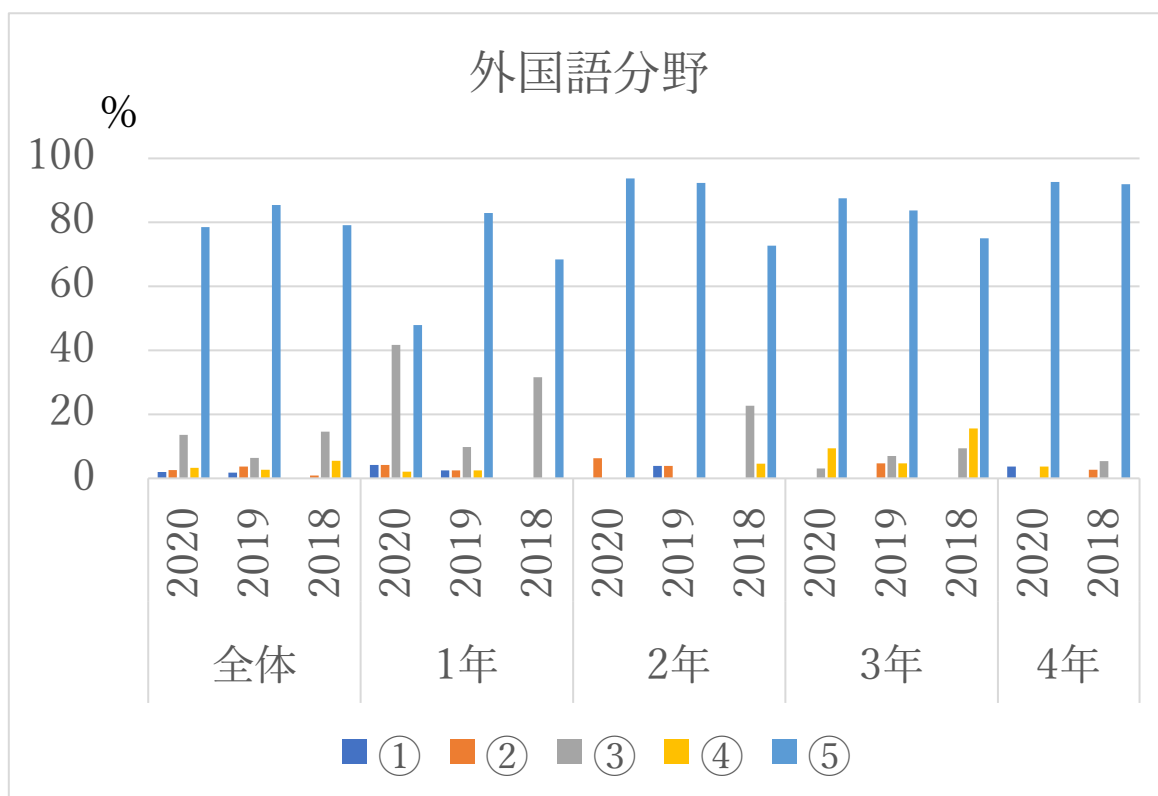


図6 外国語分野の単位取得状況 2020年度、2019年度、2018年度の全体および各学年の比較

7) 専門基礎分野の単位取得状況

(1) 結果

質問として「今まで取得した(専門基礎分野の単位取得状況)の単位取得状況について選択してください。注) 取得とは試験に合格したことを言う。」として5つの選択肢より1つ回答した結果を表7に示した。また、2019年度、2018年度結果も下部に示した。

表7 専門基礎分野の単位取得状況 (() 内は%)

2020年度

	全体		1年次		2年次		3年次		4年次	
①取得した科目がない。	1	(1)	1	(2)	0	(0)	0	(0)	0	(0)
②1-11単位取得している。	7	(5)	6	(12)	1	(3)	0	(0)	0	(0)
③12--23単位取得している。	41	(27)	36	(73)	3	(9)	0	(0)	0	(0)
④24-35目取得している。	13	(8)	4	(8)	3	(9)	1	(3)	5	(19)
⑤36単位以上取得している。	92	(60)	2	(4)	25	(78)	31	(97)	22	(81)
計	154	(100)	49	(100)	32	(100)	32	(100)	27	100

2019年度

	全体		1年次		2年次		3年次	
①取得した科目がない。	3	(3)	2	(5)	1	(4)	0	(0)
②1-11単位取得している。	3	(3)	3	(7)	0	(0)	0	(0)
③12--23単位取得している。	36	(33)	32	(78)	1	(4)	3	(7)
④24-35目取得している。	15	(14)	2	(5)	18	(69)	7	(16)
⑤36単位以上取得している。	53	(48)	2	(5)	6	(23)	33	(77)
計	110	(100)	41	(100)	26	(100)	43	(100)

	全体		1年次		2年次		3年次		4年次	
①取得した科目がない。	4	(3)	0	(0)	4	(15)	0	(0)	0	(0)
②1-11単位取得している。	21	(18)	19	(100)	1	(4)	0	(0)	1	(3)
③12--23単位取得している。	12	(10)	0	(0)	7	(26)	3	(9)	2	(5)
④24-35目取得している。	34	(29)	0	(0)	14	(52)	12	(35)	8	(22)
⑤36単位以上取得している。	46	(39)	0	(0)	1	(4)	19	(56)	26	(70)
計	117	(100)	19	(100)	27	(100)	34	(100)	37	(100)

(2)補足説明

専門基礎分野の多くの科目が1、2年次に配当され、選択科目も少ないのでばらつきが少ない。過去年度と比較しても、同様の傾向である。2018年度の1年次前期の取得単位は11単位以内なので全員が「②1-11単位取得している。」を選択する結果となっている。

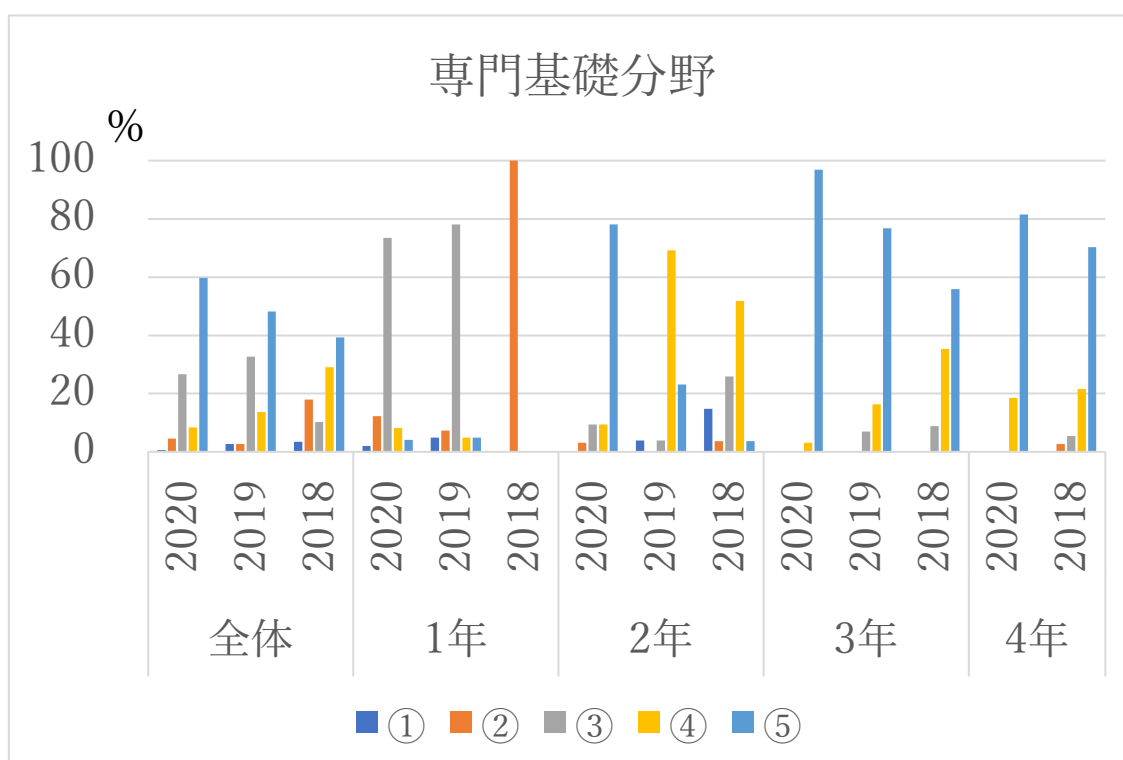


図7 専門基礎分野の単位取得状況 2020年度、2019年度、2018年度の全体および各学年の比較

8) 専門分野の単位取得状況

(1)結果

質問として「今まで取得した(専門分野)の単位取得状況について選択してください。注) 取得とは試験に合格したことを言う。」として5つの選択肢より1つ回答した結果を表8に示した。また、2019年度、2018年度結果も下部に示した。

表8 専門分野の単位取得状況 (()内は%)

2020年度

	全体		1年次		2年次		3年次		4年次	
①取得した科目がない。	3	(2)	3	(6)	0	(0)	0	(0)	0	(0)
②1-22単位取得している。	66	(43)	43	(86)	20	(57)	1	(3)	0	(0)
③23-45単位取得している。	23	(15)	2	(4)	14	(40)	6	(18)	1	(4)
④46-67単位取得している。	29	(19)	2	(4)	0	(0)	22	(67)	2	(7)
⑤68単位以上取得している。	33	(21)	0	(0)	1	(3)	4	(12)	24	(89)
計	154	(100)	50	(100)	35	(100)	33	(100)	27	100

2019年度

	全体		1年次		2年次		3年次	
①取得した科目がない。	3	(3)	2	(5)	1	(4)	0	(0)
②1-22単位取得している。	57	(52)	38	(93)	16	(62)	3	(7)
③23-45単位取得している。	14	(13)	0	(0)	8	(31)	6	(14)
④46-67単位取得している。	29	(26)	1	(2)	0	(0)	28	(65)
⑤68単位以上取得している。	7	(6)	0	(0)	1	(4)	6	(14)
計	110	(100)	41	(100)	26	(100)	43	(100)

2018年度

	全体		1年次		2年次		3年次		4年次	
①取得した科目がない。	7	(6)	2	(11)	5	(19)	0	(0)	0	(0)
②1-22単位取得している。	47	(40)	17	(89)	21	(78)	7	(21)	2	(5)
③23-45単位取得している。	35	(30)	0	(0)	1	(4)	25	(74)	9	(24)
④46-67単位取得している。	24	(21)	0	(0)	0	(0)	2	(6)	22	(59)
⑤68単位以上取得している。	4	(3)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	4	(11)
計	117	(100)	19	(100)	27	(100)	34	(100)	37	(100)

(2)補足説明

専門分野は多くが2年次以降に配当される科目であり、ほとんど必修科目のため、1年次の単位取得数は少なく、各学年においてもばらつきは少ない。過去年度と比較すると、2018年度はアンケート実施の時期が8月のため、やや異なるように見えるが、取得状況は例年同様である。

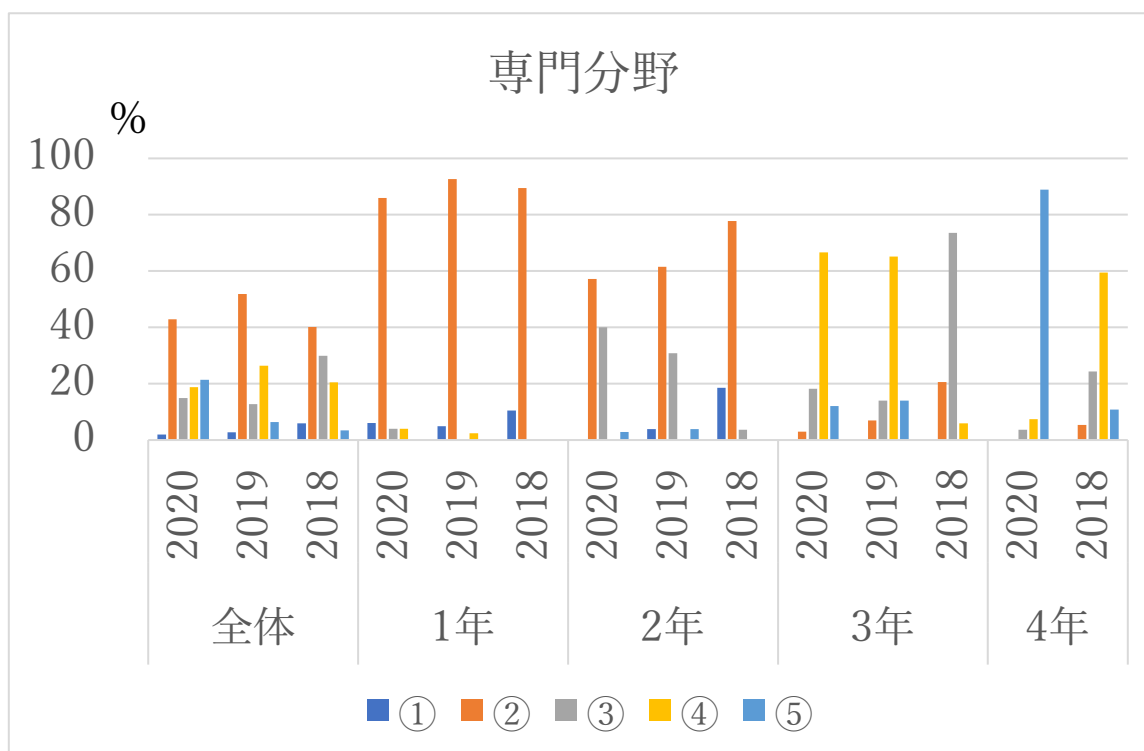


図8 専門分野の単位取得状況 2020年度、2019年度、2018年度の全体および各学年の比較

9) 思考・判断

(1) 結果

質問として「思考・判断; 日々の学内外の生活で直面する問題・課題についての質問です。以下の項目で該当するものを選択してください。」として5つの選択肢より1つ回答した結果を表9に示した。また、2019年度、2018年度結果も下部に示した。

表9 思考・判断 (() 内は%)

2020年度

	全体		1年次		2年次		3年次		4年次	
①自分で考え・判断することができない。	4	(3)	2	(4)	0	(0)	0	(0)	2	(7)
②課題の理解と判断に多くのアドバイスが必要である。	24	(16)	6	(12)	9	(26)	2	(6)	6	(21)
③少しのアドバイスがあれば課題についての理解と判断ができる。	71	(46)	23	(47)	19	(54)	12	(36)	14	(50)
④ほとんど自分で考え判断し行動できる。	49	(32)	16	(33)	7	(20)	18	(55)	5	(18)
⑤全ての事柄において自分で考え・判断し行動している。	6	(4)	2	(4)	0	(0)	1	(3)	1	(4)
計	154	(100)	49	(100)	35	(100)	33	(100)	28	100

2019年度

	全体		1年次		2年次		3年次	
①自分で考え・判断することができない。	2	(2)	0	(0)	0	(0)	2	(5)
②課題の理解と判断に多くのアドバイスが必要である。	25	(23)	12	(29)	2	(8)	11	(26)
③少しのアドバイスがあれば課題についての理解と判断ができる。	55	(50)	22	(54)	14	(54)	19	(44)
④ほとんど自分で考え判断し行動できる。	23	(21)	7	(17)	7	(27)	9	(21)
⑤全ての事柄において自分で考え・判断し行動している。	5	(5)	0	(0)	3	(12)	2	(5)
計	110	(100)	41	(100)	26	(100)	43	(100)

2018年度

	全体		1年次		2年次		3年次		4年次	
①自分で考え・判断することができない。	3	(3)	0	(0)	2	(7)	1	(3)	0	(0)
②課題の理解と判断に多くのアドバイスが必要である。	22	(19)	3	(16)	2	(7)	8	(24)	9	(33)
③少しのアドバイスがあれば課題についての理解と判断ができる	64	(55)	11	(58)	17	(63)	19	(56)	7	(26)
④ほとんど自分で考え判断し行動できる。	24	(21)	5	(26)	6	(22)	4	(12)	9	(33)
⑤全ての事柄において自分で考え・判断し行動している。	4	(3)	0	(0)	0	(0)	2	(6)	2	(7)
計	117	(100)	19	(100)	27	(100)	34	(100)	27	(100)

(2)補足説明

自力で思考・判断できる学生の割合は学年進行に関連せず、約半数の学生が「③少しのアドバイスがあれば課題についての理解と判断ができる。」と回答している。2020年度の3年次のみ、「④ほとんど自分で考え判断し行動できる。」が最も多く55%であった。

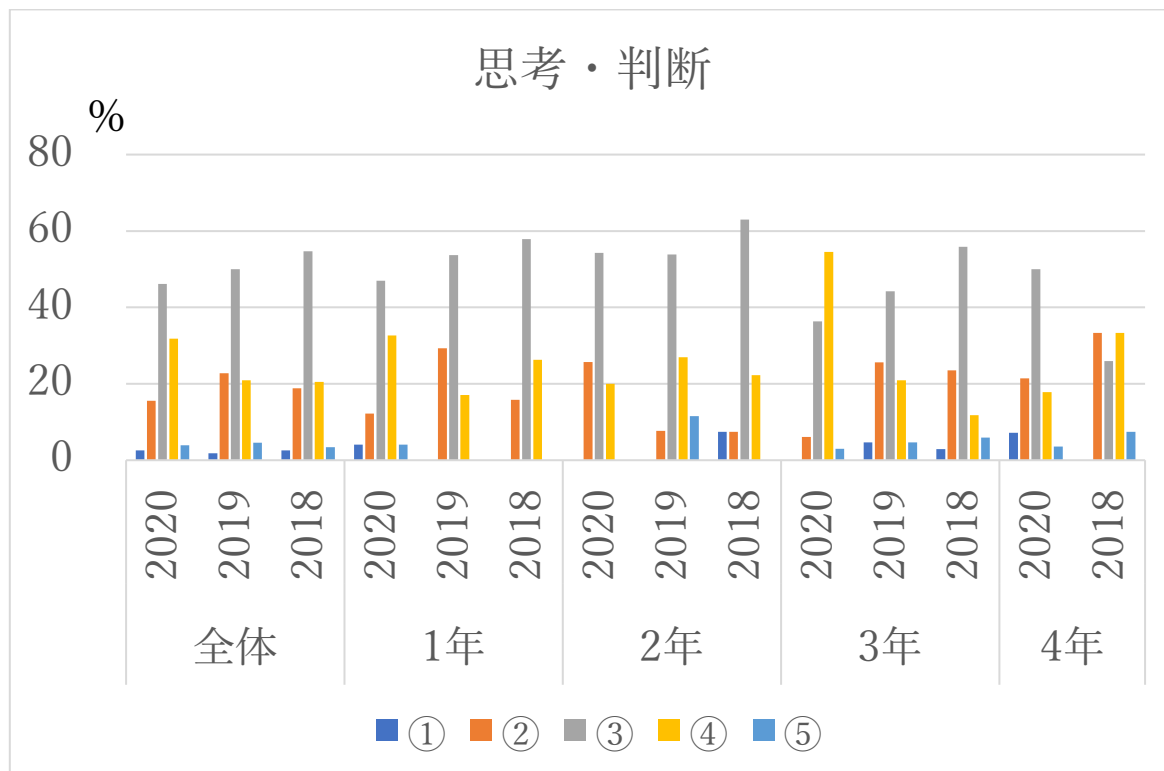


図9 思考・判断 2020年度、2019年度、2018年度の全体および各学年の比較

10) 態度

(1)結果

質問として「態度; 日頃、自分が他者にとっての態度についての質問です。以下の項目で該当するものを選択してください。」として5つの選択肢より1つ回答した結果を表10に示した。また、2019年度、2018年度結果も下部に示した。

表10 態度 (()内は%)

2020年度

	全体		1年次		2年次		3年次		4年次	
①自分の考えだけで行動することが多い。	3	(2)	1	(2)	1	(3)	0	(0)	1	(4)
②友人・親などの意見を聞こうとするが自分の考えに固執する。	11	(7)	1	(2)	5	(15)	0	(0)	5	(18)
③他者の意見も参考として自己の良心と最低限の社会的ルールに従って行動できる。	69	(45)	28	(56)	11	(32)	17	(50)	11	(39)
④自らを律し他者の意見と社会的ルールに従って行動できる。	52	(34)	15	(30)	15	(44)	12	(35)	6	(21)
⑤自己より他者の立場に立って社会的ルールを超えた倫理観に基づいて行動できる。	19	(12)	5	(10)	2	(6)	5	(15)	5	(18)
計	154	(100)	50	(100)	34	(100)	34	(100)	28	100

2019 年度

	全体		1年次		2年次		3年次	
①自分の考えだけで行動することが多い。	3	(3)	1	(2)	0	(0)	2	(5)
②友人・親などの意見を聞こうとするが自分の考えに固執する。	8	(7)	3	(7)	1	(4)	4	(10)
③他者の意見も参考として自己の良心と最低限の社会的ルールに従って行動できる	54	(49)	23	(56)	12	(46)	17	(41)
④自らを律し他者の意見と社会的ルールに従って行動できる。	33	(30)	11	(27)	9	(35)	13	(32)
⑤自己より他者の立場に立って社会的ルールを超えた倫理観に基づいて行動できる	12	(11)	3	(7)	4	(15)	5	(12)
計	110	(100)	41	(100)	26	(100)	41	(100)

2018 年度

	全体		1年次		2年次		3年次		4年次	
①自分の考えだけで行動することが多い。	3	(3)	0	(0)	1	(4)	0	(0)	2	(7)
②友人・親などの意見を聞こうとするが自分の考えに固執する。	6	(5)	1	(5)	2	(7)	1	(3)	2	(7)
③他者の意見も参考として自己の良心と最低限の社会的ルールに従って行動できる。	64	(55)	11	(58)	17	(63)	21	(62)	5	(19)
④自らを律し他者の意見と社会的ルールに従って行動できる。	38	(32)	6	(32)	5	(19)	11	(32)	16	(59)
⑤自己より他者の立場に立って社会的ルールを超えた倫理観に基づいて行動できる。	6	(5)	1	(5)	2	(7)	1	(3)	2	(7)
計	117	(100)	19	(100)	27	(100)	34	(100)	27	(100)

(2)補足説明

多くの学生が他者の意見や社会的ルールを尊重して行動できると回答している。過去年度と比較すると、2020年度は、自分だけの考えで行動することが少なく、社会のルールや他者の立場を理解した行動ができる割合が学年の進行に伴い増加傾向である。科目の中にも地域で交流しながら活動することが年々増えており、社会人としての素養が育まれてきているのではないかと期待する。

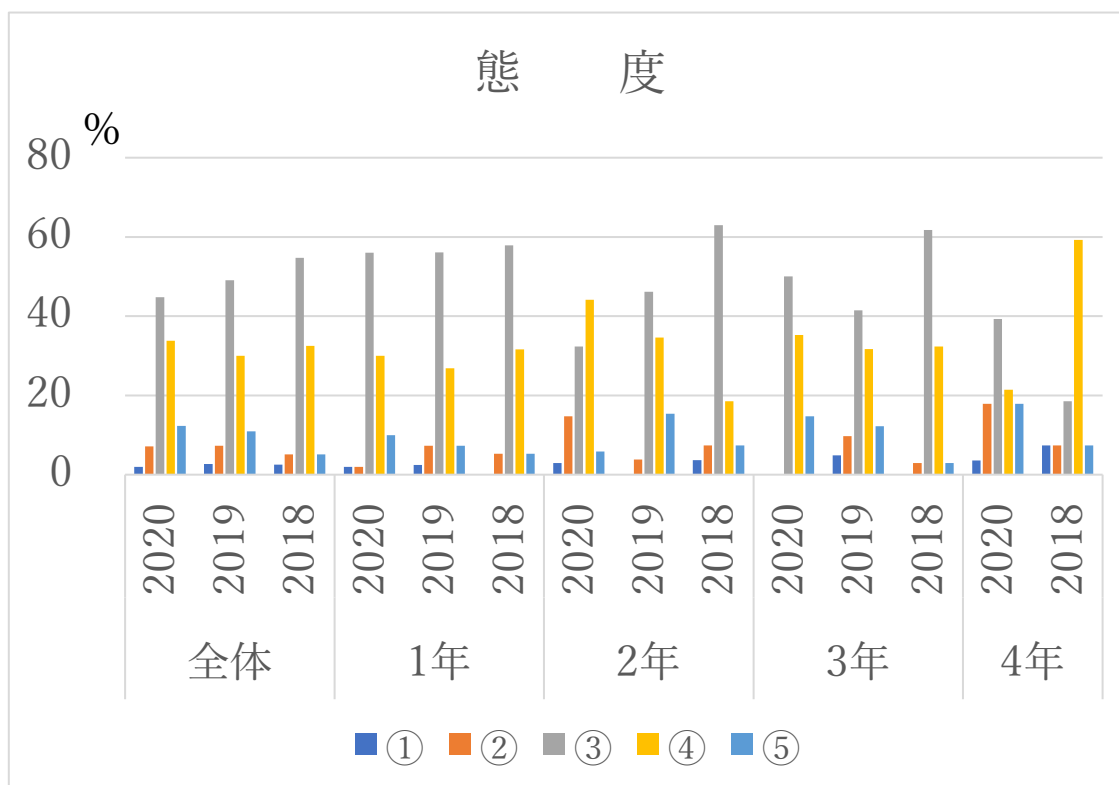


図10 態度 2020年度、2019年度、2018年度の全体および各学年の比較

11) レポート作成能力

(1)結果

質問として「レポート作成能力; 以下の項目で該当するものを選択してください。」として5つの選択肢より1つ回答した結果を表11に示した。また、2019年度、2018年度結果も下部に示した。

表11 レポート作成能力（()内は%）

2020年度

	全体		1年次		2年次		3年次		4年次	
①ほとんど他の学生や資料をそのまま写している。	4	(3)	3	(6)	1	(3)	0	(0)	0	(0)
②グラフや図などの工夫が自分で行える。	27	(18)	12	(24)	6	(18)	3	(9)	6	(21)
③ ②に加え、自分の考えを文章として表現できる。	70	(45)	26	(53)	14	(42)	14	(41)	14	(50)
④ ③に加え教科書で調べ結果を考察できる。	40	(26)	7	(14)	10	(30)	11	(32)	7	(25)
⑤ ④に加え専門誌などの文献も調べ結果を考察できる。	13	(8)	1	(2)	2	(6)	6	(18)	1	(4)
計	154	(100)	49	(100)	33	(100)	34	(100)	28	100

2019年度

	全体		1年次		2年次		3年次	
①ほとんど他の学生や資料をそのまま写している。	3	(3)	2	(5)	0	(0)	1	(2)
②グラフや図などの工夫が自分で行える。	20	(18)	12	(29)	3	(12)	5	(12)
③ ②に加え、自分の考えを文章として表現できる。	45	(41)	21	(51)	10	(38)	12	(29)
④ ③に加え教科書で調べ結果を考察できる。	31	(28)	4	(10)	10	(38)	17	(41)
⑤ ④に加え専門誌などの文献も調べ結果を考察できる。	11	(10)	2	(5)	3	(12)	6	(15)
計	110	(100)	41	(100)	26	(100)	41	(100)

2018年度

	全体		1年次		2年次		3年次		4年次	
①ほとんど他の学生や資料をそのまま写している。	10	(9)	3	(16)	1	(4)	1	(3)	5	(14)
②グラフや図などの工夫が自分で行える。	28	(24)	6	(32)	6	(22)	8	(24)	8	(22)
③ ②に加え、自分の考えを文章として表現できる。	41	(35)	6	(32)	11	(41)	15	(44)	9	(24)
④ ③に加え教科書で調べ結果を考察できる。	25	(21)	3	(16)	7	(26)	5	(15)	10	(27)
⑤ ④に加え専門誌などの文献も調べ結果を考察できる。	13	(11)	1	(5)	2	(7)	5	(15)	5	(14)
計	117	(100)	19	(100)	27	(100)	34	(100)	37	(100)

(2)補足説明

学年の進行に伴い、グラフや図を作成しながら自分の考えを示すことができるようになっていく。臨床実習の症例報告会や卒業研究もプレゼンテーションソフトを使って行うことや、教育でもそれができるように指導していることも影響していると思われる。しかし、考察までできるようになる学生は少なく、今後の課題と思われた。過去年度と比較すると、他の資料や友達の資料をそのまま写す学生が2020年度では1~2年次でも少なく、3~4年次で0人であった。2020年度はコロナ感染対策で対面式講義に代わるwebを利用した講義が導入され、ますます著作権の問題が社会的に大きく取り上げられている経緯も影響していると思われた。

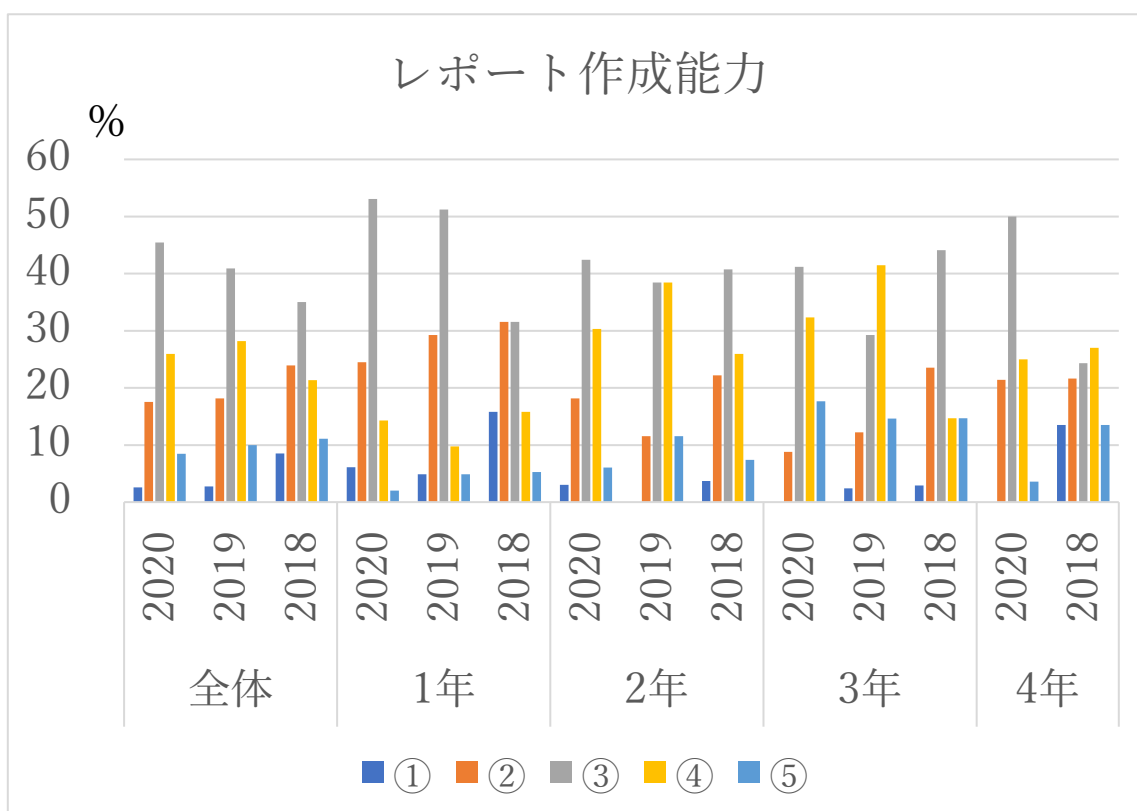


図 11 レポート作成能力 2020 年度、2019 年度、2018 年度の全体および各学年の比較

12) 情報リテラシー

(1) 結果

質問として「情報リテラシー；以下の項目で該当するものを選択してください。」として5つの選択肢より1つ回答した結果を表12に示した。また、2019年度、2018年度結果も下部に示した。

表 12 情報リテラシー (() 内は%)

2020 年度

	全体	1年次	2年次	3年次	4年次
①学内メール(Office365)の設定ができていない。	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
②学内メールの設定が出来ている。	13 (8)	2 (4)	7 (22)	1 (3)	3 (11)
③ ②に加えWord, Excelを使用しレポートを作成できる。	21 (14)	16 (34)	2 (6)	2 (6)	0 (0)
④ ③に加えPowerPointで発表資料を作成できる。	46 (30)	15 (32)	5 (16)	7 (22)	14 (52)
⑤ ④に加え文献検索とダウンロードを行える。	74 (48)	14 (30)	18 (56)	22 (69)	10 (37)
計	154 (100)	47 (100)	32 (100)	32 (100)	27 (100)

2019 年度

	全体	1年次	2年次	3年次
①学内メール(Office365)の設定ができていない。	2 (2)	2 (5)	0 (0)	0 (0)
②学内メールの設定が出来ている。	9 (8)	4 (10)	1 (4)	4 (10)
③ ②に加えWord, Excelを使用しレポートを作成できる。	10 (9)	9 (22)	1 (4)	0 (0)
④ ③に加えPowerPointで発表資料を作成できる。	47 (43)	20 (49)	10 (38)	17 (41)
⑤ ④に加え文献検索とダウンロードを行える。	42 (38)	6 (15)	14 (54)	20 (49)
計	110 (100)	41 (100)	26 (100)	41 (100)

2018 年度

	全体		1年次		2年次		3年次		4年次	
①学内メール(Office365)の設定ができていない。	8	(7)	2	(11)	4	(15)	2	(6)	0	(0)
②学内メールの設定が出来ている。	21	(18)	5	(26)	5	(19)	4	(12)	7	(19)
③ ②に加えWord, Excelを使用しレポートを作成できる。	16	(14)	4	(21)	5	(19)	5	(15)	2	(5)
④ ③に加えPowerPointで発表資料を作成できる。	28	(24)	7	(37)	6	(22)	11	(32)	4	(11)
⑤ ④に加え文献検索とダウンロードを行える。	44	(38)	1	(5)	7	(26)	12	(35)	24	(65)
計	117	(100)	19	(100)	27	(100)	34	(100)	37	(100)

(2)補足説明

1年次から多くの学生がワード、エクセル、パワーポイントを使え、学年の進行に伴い徐々にできるようになる。過去年度と比較すると、2020年度は文献検索なども1年次からできる学生が多くなり、office365の設定ができない学生は0人となっている。3年次までは、学年の進行に伴い、高度な文献検索やダウンロードもできるようになっていくのが読み取れる。一方、4年次だけは、PowerPointで発表資料は作れても、まだ文献検索やダウンロードができない学生は多い。これは近年急速にIT化が進んでいる中で、高校や中学時代におけるパソコン等の教育の違いなども影響しているかもしれない。

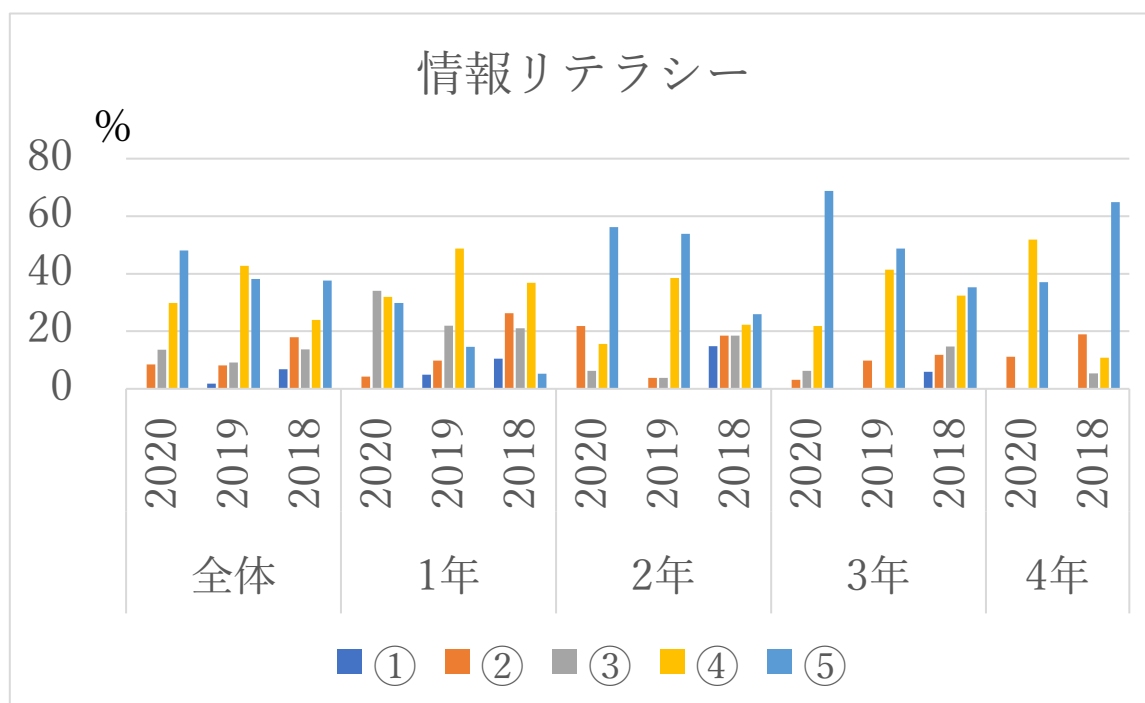


図12 情報リテラシー 2020年度、2019年度、2018年度の全体および各学年の比較

13) 表現

(1)結果

質問として「表現; 授業・グループワークなどでの自己表現についての質問です。以下の項目で該当するものを選択してください。」として5つの選択肢より1つ回答した結果を表13に示した。また、2019年度、2018年度結果も下部に示した。

表 13 表現 (() 内は%)

2020 年度

	全体		1年次		2年次		3年次		4年次	
①発言したことがない。	1	(1)	0	(0)	0	(0)	1	(3)	0	(0)
②指定されれば自分の意見を述べるができる。	47	(31)	20	(41)	14	(41)	5	(14)	7	(23)
③自分から進んで発言することがあるが多くはない。	61	(40)	18	(37)	9	(26)	17	(49)	14	(47)
④積極的に発言をするが十分自分の意見を伝えられない。	16	(10)	3	(6)	4	(12)	3	(9)	6	(20)
⑤積極的に発言し十分自分の意見を表現できる。	29	(19)	8	(16)	7	(21)	9	(26)	3	(10)
計	154	(100)	49	(100)	34	(100)	35	(100)	30	100

2019 年度

	全体		1年次		2年次		3年次	
①発言したことがない。	1	(1)	0	(0)	0	(0)	1	(2)
②指定されれば自分の意見を述べるができる。	41	(37)	20	(49)	8	(31)	13	(32)
③自分から進んで発言することがあるが多くはない。	42	(38)	16	(39)	11	(42)	13	(32)
④積極的に発言をするが十分自分の意見を伝えられない。	13	(12)	3	(7)	2	(8)	8	(20)
⑤積極的に発言し十分自分の意見を表現できる。	13	(12)	2	(5)	5	(19)	6	(15)
計	110	(100)	41	(100)	26	(100)	41	(100)

2018 年度

	全体		1年次		2年次		3年次		4年次	
①発言したことがない。	2	(2)	0	(0)	1	(4)	0	(0)	1	(3)
②指定されれば自分の意見を述べるができる。	31	(26)	6	(32)	6	(22)	10	(29)	9	(24)
③自分から進んで発言することがあるが多くはない。	51	(44)	7	(37)	11	(41)	12	(35)	21	(57)
④積極的に発言をするが十分自分の意見を伝えられない。	6	(5)	1	(5)	0	(0)	4	(12)	1	(3)
⑤積極的に発言し十分自分の意見を表現できる。	27	(23)	5	(26)	9	(33)	8	(24)	5	(14)
計	117	(100)	19	(100)	27	(100)	34	(100)	37	(100)

(2)補足説明

多くの学生が「②指定されれば自分の意見を述べるができる。」から「③自分から進んで発言することがあるが多くはない。」と回答している。学年の進行に伴い、②より③の方が多くなっていくが1~2割程度である。過去年度と比較してもほぼ同様の傾向である。

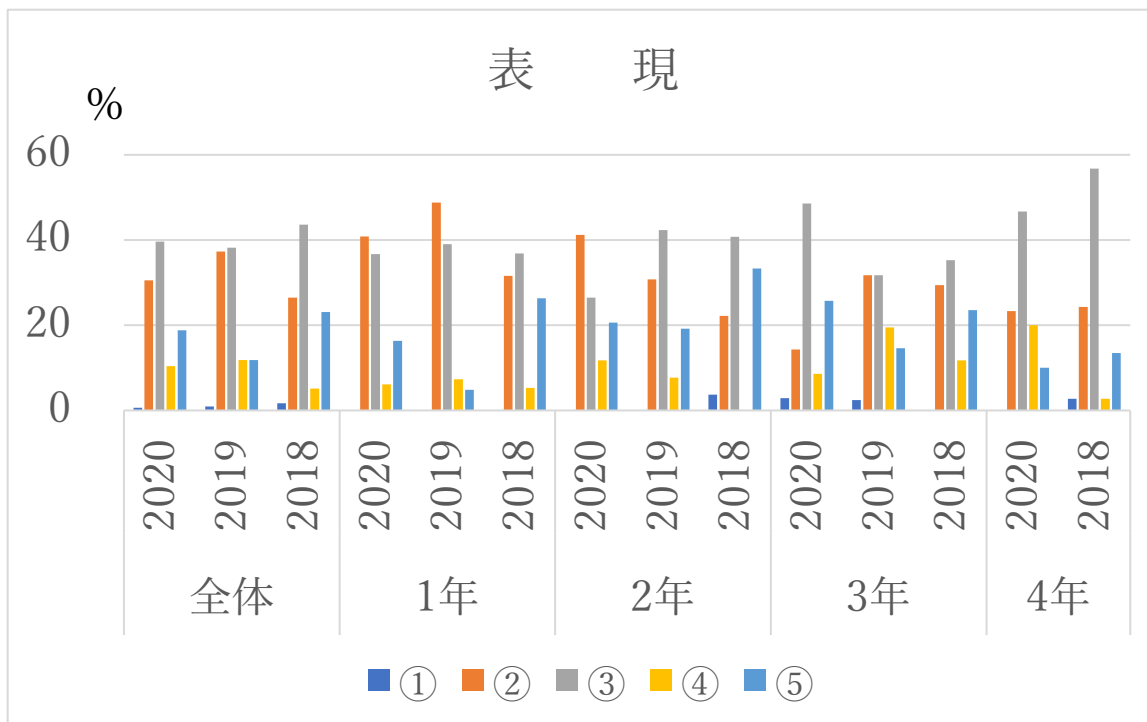


図 13 表現 2020 年度、2019 年度、2018 年度の全体および各学年の比較

14) 学修の習慣

(1) 結果

質問として「学修の習慣; 日頃の勉強時間についての質問です。以下の項目で該当するものを選択してください。」として5つの選択肢より1つ回答した結果を表14に示した。また、2019年度、2018年度結果も下部に示した。

表14 学修の習慣 (() 内は%)

2020年度

	全体		1年次		2年次		3年次		4年次	
①ほとんど勉強していない。	7	(5)	2	(4)	0	(0)	3	(9)	2	(7)
②1日平均1時間未満	34	(22)	15	(30)	11	(32)	7	(21)	1	(4)
③1日平均1時間以上~2時間未満	68	(44)	25	(50)	20	(59)	14	(41)	4	(15)
④1日平均2時間以上~4時間未満	26	(17)	7	(14)	3	(9)	9	(26)	6	(22)
⑤1日平均4時間以上	19	(12)	1	(2)	0	(0)	1	(3)	14	(52)
計	154	(100)	50	(100)	34	(100)	34	(100)	27	100

2019年度

	全体		1年次		2年次		3年次	
①ほとんど勉強していない。	9	(8)	5	(12)	2	(8)	2	(5)
②1日平均1時間未満	30	(27)	10	(24)	12	(46)	8	(20)
③1日平均1時間以上~2時間未満	56	(51)	22	(54)	11	(42)	21	(51)
④1日平均2時間以上~4時間未満	13	(12)	4	(10)	1	(4)	8	(20)
⑤1日平均4時間以上	2	(2)	0	(0)	0	(0)	2	(5)
計	110	(100)	41	(100)	26	(100)	41	(100)

2018年度

	全体		1年次		2年次		3年次		4年次	
①ほとんど勉強していない。	17	(15)	2	(11)	7	(26)	3	(9)	5	(14)
②1日平均1時間未満	32	(27)	7	(37)	9	(33)	10	(29)	6	(16)
③1日平均1時間以上~2時間未満	43	(37)	9	(47)	9	(33)	13	(38)	12	(32)
④1日平均2時間以上~4時間未満	15	(13)	1	(5)	2	(7)	8	(24)	4	(11)
⑤1日平均4時間以上	10	(9)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	10	(27)
計	117	(100)	19	(100)	27	(100)	34	(100)	37	(100)

(2) 補足説明

1年次では1~2時間の学修が多いものの、2年次では1時間未満の学生が多い。3年次では臨床実習や国家試験も強く意識するためか、学修時間が多くなる傾向である。過去年度と比較すると、ほぼ同様の傾向を示すが、「①ほとんど勉強していない。」割合が若干低下してきている。また、2018年度と2020年度の4年次を比較すると(2019年度は4年次のデータがないので省略)、「⑤1日平均4時間以上」が2020年度で多くなり、特に国家試験対策学習が強化されてきていることが考えられた。

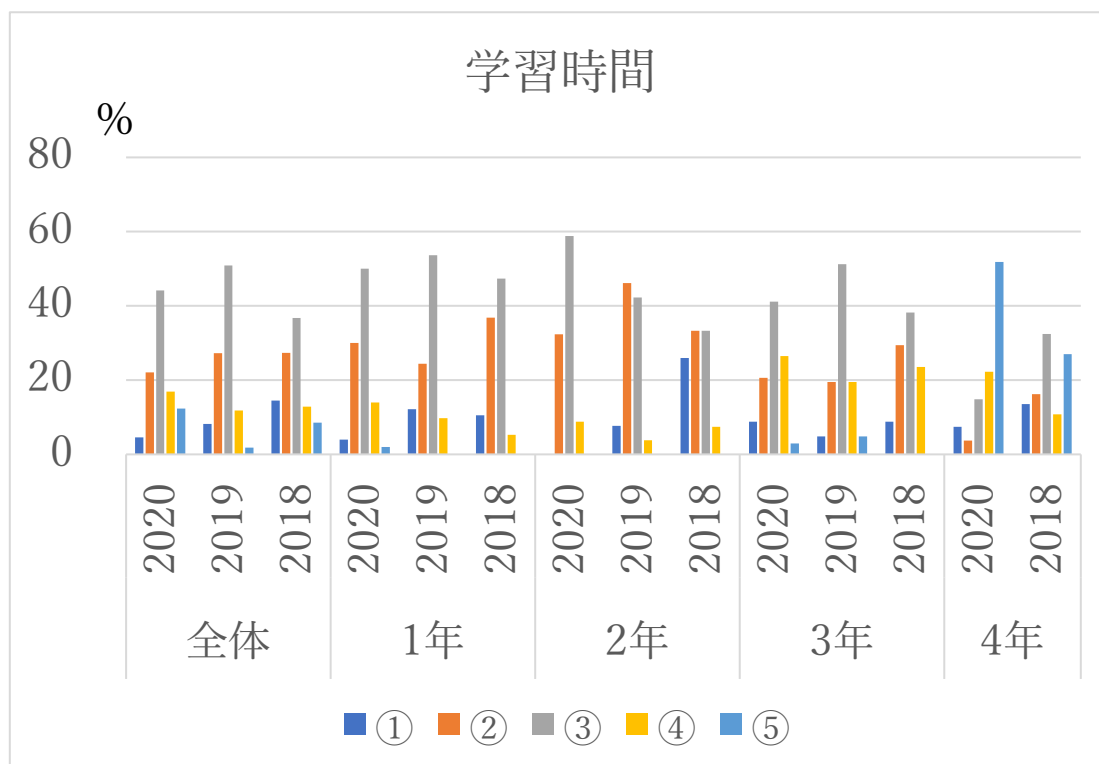


図 14 学修の習慣 2020 年度、2019 年度、2018 年度の全体および各学年の比較